

平成 25 年 1 月 15 日 傳太郎が逝って、三ヶ月が過ぎました。

12 月 14 日は、息子（雅季）の誕生日でした、17 才になりました。高校 2 年生です。スキー部の冬休み合宿 19 泊 20 日で暮れも正月も一度も家に帰らず頑張っていました。

#### 想念

武藤の終焉は、あまりにも突然でした。

息子が、「父の志を自分のやり方で継ぎたい」との意志ですので、学業を無事終えるまで、米作り、武藤商会（富士吉田）、武藤商会中国支店、社団法人武藤農法農業研究開発機構を継承して行きたいと思います。

そして武藤が一番望んでいる事は、私たち家族が穏やかに従容と日々を過ごす事だと思います。もう、幾ら呼んでも返事もありませんが、私の話しかけにきっと何時も頷いています、何時か私が武藤の待つ所に行ったら「悪かったな、ありがとうな」って何時もの様に言うのだと思います。

武藤は、生真面目で寡黙な人でした。何時も忙しく、何時も、何かに没頭していました、目標に邁進する人でした。

きっと今も天翔って多忙なのかも知れません。

本来、忌明けの御しるしをお送りする時期ですが、皆様の御芳志を日本赤十字社に寄付させて頂きました。生前ボランティア活動をしていた武藤もきっと喜んでくれると思います。何卒ご理解の程賜りたくお願い申し上げます。

最後に武藤の社団法人設立時主旨を記載させていただき、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「食べることは、生きる事だから安全でなければならない」これが、私の農業に対する基本的な考えです。

私は、30 数年前から、自然豊かな富士山の麓で、無農薬・無化学肥料での稲作作りに励んできました。

今日、日本農業は、化学肥料・農薬の多量投入が、戦後「質より量」を重視した農業政策が現在に至るまで続いています。その結果農地は傷み、土壌その物が、農薬と化学肥料により、微小な、生き物も住めない土壌となっております、生産される農産物は、本来の「味」・「風味」・「栄養」が不足しているばかりでなく、人間にとって有害な物質までが含まれています、更に食生活そのものまで乱れ、多くの日本人の健康が害されております、まさに食源病です。この事は単に個人的な問題ではなく、国家、民族崩壊に繋がる大きな危機的状況なのです、この危機回避する唯一の方法を私は実践して来ました。 現在市場には「有機栽培」・「減農薬栽培」・「特別栽培」・・・etc と色々な表示がなされ、市場に出回っております、然ながらその市場に出回ってる、商品が本当に「安心、安全」な商品なのかと疑問に思い、一般社団法人「武藤農法農業研究開発機構」を、志を同じくする仲間と設立いたしました、この組織は、「生産者としての使命」・「流通関係としての使命」・「販売者としての使命」を共有し、200 品目に及ぶ残留農薬検査で、「残留農薬検出せず」と言った商品だけを検査証と共に市場に供給する団体です。

農業は「生命維持産業」です、食と命は直結しています、農業に誇りと自信を持って、

土を大切・丁寧に育て、自然と環境に負荷を与えない、資源の無駄遣いをしない、本来の農業、新たな農業、第六次産業（第一次・第二次・第三次・・・）として消費者と生産者「信頼と安心・安全」を得られるネットワークを確立し広く社会に貢献してまいります。

一般社団法人武藤農法農業研究開発機構  
理事長 武藤傳太郎

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

生前、本当に多くの方に支えて頂きました、心より感謝申し上げます、誠にありがとうございました。不悉

平成 25 年 1 月 25 日  
武藤廣子 武藤雅季

